

熊本城復元整備計画

【熊本城の概要】

- ◇ 城 史
 - ・1467年（応仁年間） 出田秀信、茶臼山東端（現在の千葉城）に築城
 - ・1496年（明応5年） 鹿子木親員、茶臼山西南麓（現在の古城）に築城
 - ・1588年（天正16年） 加藤清正、隈本城（古城）に入城
 - ・1601年（慶長6年） 茶臼山に新城の築城着手
 - ・1607年（慶長12年） 新城完成、隈本城を熊本城に改称
 - ・1632年（寛永9年） 細川忠利、肥後54万石の領主となる
 - ・1871年（明治4年） 廃藩置県により肥後藩が熊本県となる
 - ・1877年（明治10年） 西南戦争、天守閣・本丸御殿等の主要建造物が焼失
 - ・1960年（昭和35年） 天守閣再建
- ◇ 城郭の規模
 - ・周囲 約5.3 km、面積 約98 h a （加藤清正の築城当時の縄張り）
 - ・都市公園法による総合面積 約56 h a
 - ・文化財保護法による特別史跡 約51.2 h a
- ◇ 築城当時の建造物
 - ・大小天守閣をはじめ、櫓49、櫓門18、城門29を数えた

【復元整備計画の概要】

これまでの熊本城の整備にかかる答申や報告、提言や意見を踏まえ、平成9年度に「熊本城復元整備計画」を策定した。

1、整備方針

30年から50年をかけて、加藤清正が築城した城郭全体（約98 h a）を対象に、往時の雄姿に復元するとともに、市民や観光客に愛され利用される整備を目指す。

- 歴史的建造物の復元と保存
 - 歴史的建造物を史実に忠実に復元するとともに、積極的な活用を図る。
- 都市の潤い空間としての環境整備
 - 原風景を守りながら、豊かな緑を育成する。
- サービス空間の創出
 - サービス施設の充実とともに、歴史文化の体験学習の場として整備する。

2、整備方法

城郭を5ゾーンに区分し、そのゾーンに見合った整備を効率的に進めるとともに、整備時期についても短期、中期、長期に区分し整備を進める、

- 本丸ゾーン . . . 保存・復元ゾーン
- 二の丸ゾーン . . . 緑の遊園ゾーン
- 三の丸ゾーン . . . 歴史学習体験ゾーン
- 古城ゾーン . . . エントランスゾーン
- 千葉城ゾーン . . . 文化交流ゾーン

熊本城復元予想図

資料 4



◇短期（第Ⅰ期）計画に

◇第2期復元整備計画による

◇今後の復元予定建造物

- ① 南大手門 ④ 元太鼓櫓 ⑦ 馬具櫓および続堀 ⑩ 竹の丸五階櫓 ⑬ 櫓方三階櫓
- ② 戌亥櫓 ⑤ 飯田丸五階櫓 ⑧ 平左衛門丸の堀 ⑪ 数寄屋丸五階櫓 ⑭ 北大手門
- ③ 未申櫓 ⑥ 本丸御殿大広間 ⑨ 西櫓御門および百間櫓 ⑫ 御裏五階櫓

【短期（第Ⅰ期）復元整備計画】

平成10年度から復元整備事業に取り組み、平成19年度までに本丸御殿大広間をはじめ、7つの建造物の復元を終えた。なお、平成11年の台風18号で倒壊した西大手門も再建した。

区 域	復元建造物	事業期間	事業費
西出丸一帯	南大手門 戌亥櫓	平成10年～15年度	約19億円
	未申櫓 元太鼓櫓		
	西大手門	平成12年～15年度	約5億円
飯田丸一帯	飯田丸五階櫓	平成10年～16年度	約11億円
本丸一帯	本丸御殿大広間	平成11年～19年度	約54億円

□ 復元募金

- ・期 間 平成10年4月～平成19年3月
- ・目標額 15億円
- ・募金額 約12億6百万円（城主約2万7千人）
（城主とは1万円以上の寄付者）

□ 市民債の発行

- ・【蘇る名城 くまもと市民債】
購入額は5～100万円、5年満期
- ・H15・16・17・18年度：各年4.5億円
- ・H19年度：1億1千万円の発行

【第Ⅱ期復元整備計画】

今後10年間（平成20年度～平成29年度）を目処に、行幸坂から見た往時の熊本城の復元整備を図るため、「馬具櫓一帯」、「平左衛門丸の堀」、「西櫓御門および百間櫓一帯」の区域の整備を進める。

□ 復元募金 新「一口城主制度」 平成21年1月1日再開

目標額：15億円 募金状況：平成20年度（平成20年度） 1,000,000円